



年不詳十月十四日付け仙石忠政書状（仙石家17―12号）

返々、あいたく候  
事、申はおろか

（局）

にて候、又、つほね  
二人、そもしへ

ヨクほうこう

申候や、ほうこう  
いたし候はすは

此はうへ申こされ候べく候、  
く、かしく、

ふみあい申候と

そんし、くり

返しく、見

なかめくらし

申候、く、貴殿事

そくさいに候て、

きけんよくあそひ

申候よしきき、

うれしさ中

くにて候、

とかく、はやく

あい申度候て、

そのほうにはかり

心候て候、く、

すいふんここともと

ひまをあけ候て

かへり、かたり

可申候、やかて

く、見まひに

人をまいらせ候べく候、

(三齋)

三さいに此ものを  
まいらせ候ゆへ、いそぎ  
さうく申候、  
めてたく  
かしく、

兵太

十月十四日 忠政 (花押)

(政勝)

万千代殿

返事